

令和4年度国富町立木脇中学校 学校関係者評価書

【教育目標】	「豊かでたくましく、将来をしなやかに生き抜く生徒の育成」
【学校経営スローガン】	『ふるさとを大切に、夢を育む、みんなの木脇中学校』 ～元気いっぱい、笑顔いっぱい、歌声いっぱいの心温かい木脇中～

4 : とても良い 3 : 良い 2 : 少し悪い 1 : 悪い

	番号	評価指標	学校としての主な取組や反省	保護者	教職員	関係者	学校関係者評価コメント
Ⅰ 教育目標 について	①	学校は、「心豊かでたくましく、将来をしなやかに生き抜く生徒の育成」に努めようとしていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人権教育を基盤とした学習指導及び生徒指導、特別支援教育を推進している。 ○ 全職員によるチームワークを深め、生徒一人一人に寄り添った支援に努めている。今後も職員が一体となって取り組みたい。 	3.1	3.2	3.9	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人生の基本であるの、大いに進めてもらいたい。 ○ 立志式での生徒の夢や希望に満ちた言葉に感動した。 ○ 生徒の姿を見ると教育目標に具現化しつつある。

	番号	評価指標	学校としての主な取組や反省	保護者	教職員	関係者	学校関係者評価コメント
Ⅱ 学校経営 スローガン について	①	学校は、ふるさとを大切に生徒の夢を育もうとしていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合的な学習の時間を中心に、各学年共にふるさと木脇、ふるさと宮崎の理解を深め、地域で活躍する方々とふれあう学習活動を設定している。 ○ キャリア教育の充実を図り、生徒が夢を育む取組を更に進めていきたい。 ○ 生徒へのアンケート調査では、91%の生徒が「ふるさと木脇を大切に感じている」と答えている。 	3.2	3.4	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の住んでいる地域を愛する人間に育ててほしい。 ○ 修学旅行で「せんぎり」を手渡してアピールした事は、とてもすばらしい体験だったと思う。 ○ 生徒の先生方との人間関係がすばらしい。生徒の姿に現れている。 ○ 木脇中は、特に「きずな」が強いように思う。 ○ 多感な年頃ですが、学校生活が楽しいと答えていることはよい。 ○ 生きることは楽しいし、学びはあそび、あそびは学びだと思える支援をお願いしたい。
	②	学校は、「元気いっぱい、笑顔いっぱい、歌声いっぱいの心温かい木脇中づくり」に努めようとしていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 感染症拡大防止対策のため行事や部活動等の制限が多い学校生活を送っている。そのような状況下でも多くの生徒が笑顔で生活している。 ○ 生徒へのアンケート調査では、83%の生徒が「学校生活を楽しい」と答えている。しかしながら、学校生活を楽しいと答えることができなかった生徒もいるので、より丁寧な支援を行いたい。 	3.0	3.2		

	番号	評価指数	学校としての主な取組や反省	保護者	教職員	関係者	学校関係者評価コメント
Ⅲ 重点取組事項について (1) 夢の実現につながる「学力」を保障するきめ細かな学習指導【知】	①	学校は、キャリア教育の充実による「学びに向かう力、人間性等」の基盤の醸成に努めていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャリア教育で身に付けさせたい力を明確にし、全教育活動でこの力を意識した実践を行っている。 ○ 生徒の目指す具体的な姿として「6つのキーワード」を設定し、生徒にも分かりやすく提示しながら、身に付けさせたい力の伸長を図っている。 	2.9	3.2	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学力は個人差があるが、みんなが授業が楽しいと思えるような内容にしていってほしい。 ○ 人生、学力だけではない。いかに人生に対して対応できるか、中学校で基本を学べば、おのずと先が開けてくると思う。 ○ 「思考力」を高め、知識を高め、学ぶ楽しさも身につけてほしい。 ○ 先生方の言葉や言動を通して、「判断力、表現力」も自然に覚えていくのではないかと思います。 ○ 「学力」は、生徒が目標を具現化するために大切な力です。鍛えることと自主的に取り組むことのバランスをとってほしい。 ○ キャリア教育についての学校の取組がよい。 ○ タブレット端末は、これからのデジタル化の時代であるので、大いに活用してほしい。 ○ これからの時代に求められる人材育成について勇気をもった改革をお願いしたい。 ○ タブレットは小学校から活用しているので、増々効果が出るだろう。 ○ 学力、人間性づくりをこれからも期待する。 ○ 個別の指導・支援は大変だと思うが、今後も継続した取組をお願いしたい。
	②	学校は、「知識及び技能」の確実な定着と「思考力、判断力、表現力等」の育成に努めていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習内容の確実な定着のため、朝の学習や単元テストの実施等、各教科、各学年で取組を工夫している。特に、全学年ともに課題である数学と社会について、生徒のレベルに合わせたプリントを準備する等、きめ細かな指導を行っている。 ○ 「思考力・判断力・表現力」の育成に向けた職員研修を行う等、授業力の更なる向上に努めたい。 	2.9	2.9		
	③	学校は、ICTの効果的な活用に努めていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1人1台のタブレット端末を活用し、授業の充実を図っている。ほぼ全ての教師がICTを活用した授業ができるようになっている。 ○ 生徒の学力向上のために、タブレット端末の効果的な活用方法について、実践しながら研究を深めていきたい。 	3.1	3.2		
	④	学校は、個別の教育支援計画・指導計画による支援の充実を行っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 支援が必要な生徒について、定期的に共通理解を図りながら、きめ細かな支援を行っており、生徒の困り感の解消につながっている。 ○ 個に応じた学習指導・支援の効果が現れつつある。チームによる個に応じた学習指導・支援を大切にしたい。 	2.8	3.3		
	⑤	学校は、授業とリンクした家庭学習の習慣化を図っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業とリンクした家庭学習の習慣化を図っているが、課題の在り方を見直し、家庭での学習が充実するよう、さらに工夫する必要がある。 	2.7	2.8		

	番号	評価指数	学校としての主な取組や反省	保護者	教職員	関係者	学校関係者評価コメント
Ⅲ 重点取組事項について (2) 「自己有用感」を育てる生徒指導・特別支援教育【徳】【体】	①	学校は、「傾聴」による多面的な生徒理解、チーム支援に努めていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒へのアンケート調査では、92%以上の生徒が「先生たちは話や相談をよく聴いてくれる。」と回答している。 ○ 「傾聴」を大切にし、生徒理解を行うことに努めているが、全ての生徒の思いを受け止め、チームによる支援につなげるまでにはいたっていない。生徒一人一人への丁寧な対応が行えるよう、再度、職員の意識を改善したい。 	2.8	3.3	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指導方針がよい。人の痛みが分かる様な生徒が育つと思う。 ○ トラブルがあっても、生徒、先生が、思いやりをもって話しを聞きあって前進してほしい。 ○ 生徒の素直さがある反面、たくましさをより一層きたえることの大切さを感じる。 ○ 学校の取組がいじめ対策にもなっていてよい。 ○ 社会の変化の中で子どもの育ちも変化し、増々先生方の傾聴の技術は必要となってくると思う。その前に、先生方の心のゆとりがもっと必要だと思う。 ○ 職員間の認め合う関係があれば、子どもは見て育つと考える。 ○ 「傾聴」はどの分野でも大事だ。また、相手をほめ、そして自分をほめるという生徒の回答の高さはとてもよい。 ○ 生徒の話を聞いてもらい、相談にのってもらい、とてもありがたい。親には話せないことを話せないことを話せる環境はよい。生徒の話に耳を傾けていただければ子どもたちも安心だと思う。
	②	学校は、積極的な「承認」を通した「自己有用感」の育成に努めていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒へのアンケート調査では、93%以上の生徒が「友だちや社会のために、何かできると思う。」と回答している。また、95%以上の生徒が「何かをして感謝されることがある」と回答している。 ○ 「自己有用感」を感じている生徒はたいへん多い。生徒の頑張りを職員や生徒同士で認め合う雰囲気づくりに努めている。 	2.9	3.2		
	③	学校は、人権教育、道徳教育の充実、「受容的風土」のある学級づくりに努めていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人権週間や毎週の道徳の時間等、学級担任だけでなく全職員で取り組んでいる。 ○ 学年、学級内における人間関係のトラブルもあるが、職員が迅速にかつ適切に対応している。より一層、互いを認め合う関係づくりができるようにしていきたい。 	2.9	3.1		
	④	学校は、基本的な生活習慣の確立に努めていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ どの職員も保護者と連絡を取り合い、連携に努めている。また、生徒と職員が一緒になって校則の見直しを図っているところである。 	3.2	2.8		

	番号	評価指数	学校としての主な取組や反省	保護者	教職員	関係者	学校関係者評価コメント
Ⅲ 重点取組事項について (3) 「ふるさと木脇」を大切に、保護者と連携し地域と協働する学校づくり	①	学校は、学校便り、学級通信、学校HP等による情報発信に努めていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての学年、学級で、学年通信、学級通信を発行している。家庭への連絡事項だけでなく、学級の様子や生徒一人一人のよさが多く記述しており、温かい内容となっている。 ○ 宮日新聞や、町報誌等、生徒の活躍を掲載していただく機会が多かった。また、情報モラル教育公開授業の様子を「みらい みやざき まなび隊」でテレビ放映していただいた。 	3.3	3.5		<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校便りを始め、宮日、放送等、すばらしい成果だ。 ○ 取組がすばらしい。生徒たちがうらやましい。 ○ 生徒の活動が地域に発信されることはとてもよい。 ○ 防災学習はとてもよい。地域のことを知る、自分は何かできるか等を考えて行動すること、誰かの役にたてるか、一緒に考えてみたいです。
	②	学校は、保護者や地域の方が気軽に相談できる雰囲気づくりに努めていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者や地域の方の相談をいただいている。これからも気軽に相談できる学校でありたい。 	2.9	3.2		<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校と地域社会が一つになって、生徒の教育に取り組む姿はすばらしい。生徒たちにも徐々に伝わってきていると感じる。 ○ 地域とのつながりを大切にいただいている。
	③	学校は、小学校や保育園との連携に努めていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 感染症拡大防止のために、例年のような活動はできなかった。木脇小の公開授業に本校職員が参加したり、小中合同で研修会を行ったり、職員同士の連携に努めている。今後は、児童生徒の連携を推進したい。 ○ コロナ禍でもあり、こども園、保育園との連携はあまり図ることができなかった。今後、生徒が、ふるさと木脇を感じられる手段の一つとなるような連携の在り方を工夫したい。 	2.9	2.5	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ○ これから色々なところと連携して、地域とのイベントが出来ればいいと思う。 ○ 小・中学校ととてもうまく連携されていると見受けられる。 ○ コミュニティ・スクールについて、きめこまかな計画、実践、成果を評価します。
	④	学校は、コミュニティ・スクールとして地域と協働する教育活動の実践努めていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1学年では「大根づくり」「国富町魅力探訪ウォーク」第2学年では町内の事業所職員による「職業講話」や修学旅行における「国富町PR大作戦」、第3学年では地域の「防災学習」等、地域の方々から協力をいただきながら学習活動を行った。 ○ コミュニティ・スクールとして、地域の方々の想いや願いを取り入れながら教育活動を行っている。本年度は地域学校協働活動の体制づくりに重点を置いて取り組んだ。次年度以降、さらに活動を進めていきたい。 	3.1	3.1		

番号	評価指数	学校としての主な取組や反省	保護者	教職員	関係者	学校関係者評価コメント	
IV その他	①	学校は、新型コロナウイルス感染症対策に努めながら、教育活動を行っていますか。	○ マスクの着用、手洗い、換気、密を避ける等、感染症対策を徹底しながら教育活動を行っている。少しずつ規制が緩和され、活動ができるようになってきた。これからは、対策を行いながら活動する工夫をしていきたい。 ○ 保護者や地域の協力を得ながら取り組んでいる。特に、体育大会では、PTA 役員を中心に対策を行うことができた。ご協力とご理解に、深く感謝したい。	3.3	3.5	3.7	○ コロナ禍でも普段と変わらない生活をさせるため、大変苦労があると思う。 ○ 先生方は、昔と違って非常に難しい状況にある。今の様な教育を行えば、先生も生徒も将来が明るく開けるだろう。 ○ 生徒は先生をお手本として物事を考えると思う。人として身につけてほしい多くの考え方や行動は、中学時代が基礎となるのではないか。 ○ 先生方の地域、その他全ての教育活動に専念されていることが、生徒や保護者に伝わってくるように感じる。
	②	学校は、コンプライアンスの推進に努めていますか。	○ 職員へのアンケートや研修を行い、コンプライアンスについての理解を深め、意識の高揚を図っている。今年度は、セクハラ・パワハラに関する研修を実施した。 ○ これからも職員一人一人がコンプライアンスを遵守し、信頼される学校につながるように取り組みたい。	3.2	3.2		○ 職員の人権感覚の高揚はなかなか難しい。今後も取組を工夫してほしい。 ○ 先生方一人一人が大切にされることで、生徒も大切にされる先生が増えると思う。 ○ コミュニケーションが豊かにもてるような「ゆとり」の時間をどう作るかが課題だと思う。
	③	学校は、職員一人一人の「人権感覚」の高揚に努めていますか。	○ 職員間のコミュニケーションを大切にし、「傾聴」と「承認」を大切にする風土づくりに努めた。 ○ 今後も、職員一人一人の「人権感覚」を高めるような取組を工夫していきたい。	2.9	3.2		